

里山は宝の山！

多様な人々の経験を活かした交流と学びの推進と
保全・活用による地域の魅力づくり



東京農業大学農山村支援センター
出川真也

はじめに—人々をひきつける里山の魅力—

多面的・公益的機能の発揮

(水涵養、農産物の供給、ふるさとの原風景(癒し)、地球温暖化防止機能.etc)

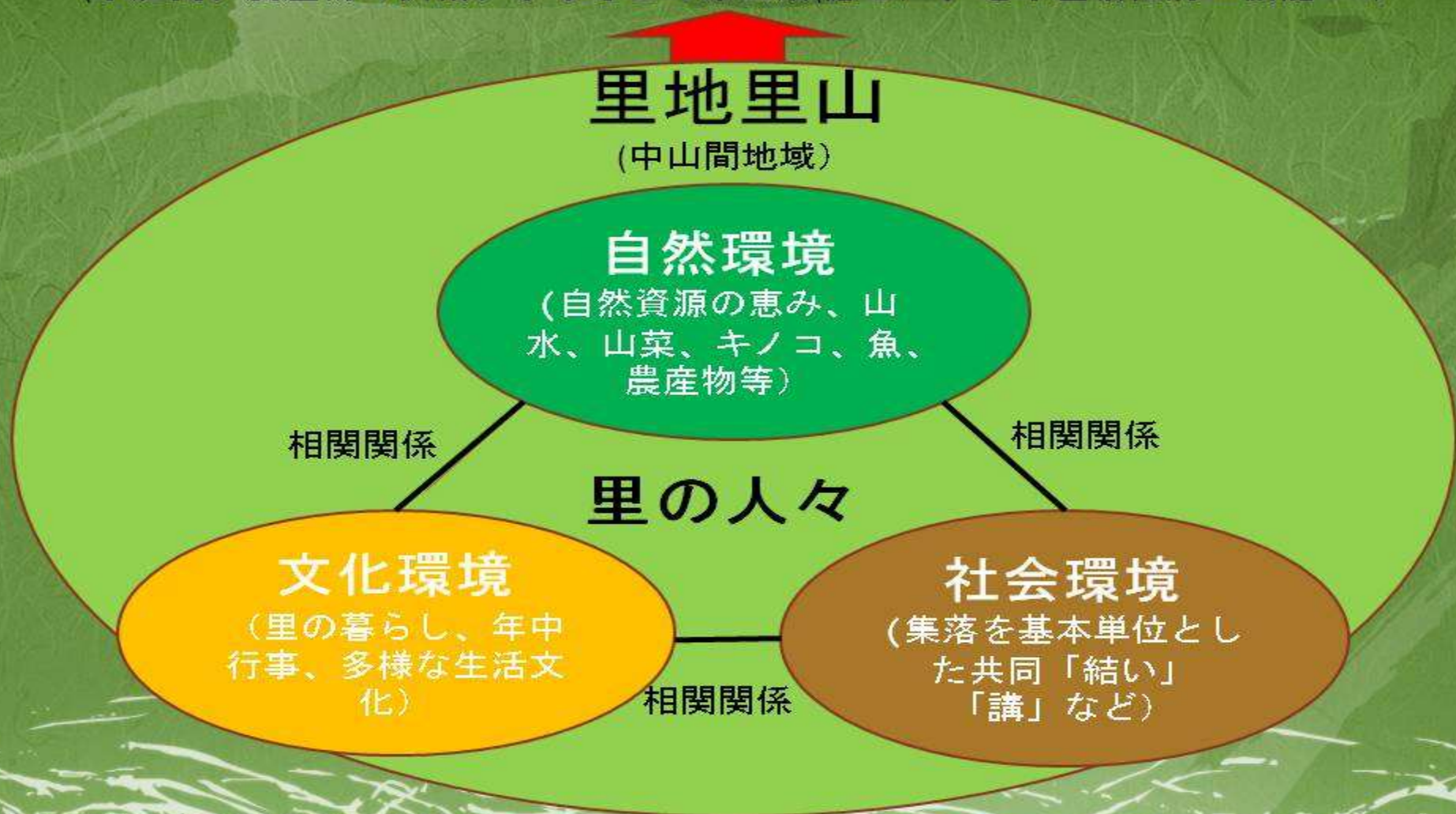


図1:里地里山構成の相関関係

事例 1 山形県北部の山村集落の試み

- 身近な環境を見つめなおし学ぶことから出発
- 社会教育を通じて学びを実践に
- 地域住民が「里の先生」として活動主体に

地元学（地域の環境文化調査）

～まずは地域の「あるもの探し」からはじめよう～
子どもから大人まで地域住民と地域外の参加で実施



地元学（地域の環境文化調査）

～聞いて、見て、やってみて、調べました～

子どもも大人もじいちゃん、ばあちゃんも楽しくなる



地元学で発見された水辺の生き物達



地元学で再発見された郷土料理の数々



美味しいものがたくさんある！

～山菜料理のレシピが100種類以上～



←冬に備
えて瓶詰
めなどに
して保存。



美味しいお蕎
麦もあります。

角川に長期間訪れた人は、大きくなって帰っていく？

地元学（地域の環境文化調査）

皆で発表会 調べたものを地図にまとめて今後の活動を話し合う。
集落の将来の夢を語り合いました。



子供から大人、じいちゃんばあちゃんまでみんなで語り合いました。

祭り・行事

お手伝いツアー
ワーキング・ホリデー

仕事

山、畑、田んぼ
など

参加・体験

遊び・楽しむ

川や山での
魚釣り、泳ぎ、
山歩き、山菜とり
など

見る・眺める
聞く

地域に根ざした手作り地域産品

組織構成

「里の先生」を中核に、6学校を開校

- 山の学校
 - 川の学校
 - 食の教室
 - 農の学校
 - もの作り塾
 - 民話・昔遊び塾
-
- 交流部（里親委員会）
 - 応援部（サポーター ※主に高校生と若手社会人）

山の学校：散策会 一里山の文化を結び付けて学ぼうー

もの作り材料集め、炭焼き窯体験、ブナ林散策会



川の学校



田んぼの学校



農の学校：畑の学校（野菜作りと里山保全活動）



食の教室



地域伝統の食の技術が
新たな産品開発へつながる

もの作り塾

里の素材を生かしたもの作り塾を開催。



角川民話塾

～角川弁で語られる地域の人々の心に残る言い伝えから学ぼう～



交流促進

（里親委員会の取組み）

地元もヨソモンもみんなで里の自然や文化を伝え、暮らしを共有したい



ふるさとの原風景を元気付ける取り組みは地域もヨソモンも協働でかわりうるもの。
結果として交流人口が拡大しています。



※外部参入者のことを親しみを込めてヨソモンと地元では言います。

取組みのプログラム化・パッケージ化

I. 地域体験プログラム (一部抜粋)

エリア	森	里	川	海
地域	角川・田茂沢など	中野俣・松ヶ岡など	清川・長沢など	三瀬・飛島など
春	カタクリの花観察会 春の里山手入れ体験 散策道/あずまや作り 山菜採り体験	田植え 畑の植え付け	サクラマス釣り ヤツメウナギ ハルガニ採り	春の海岸散策会 春のカヌー海岸体験 夜光虫観察会
夏	里山ビオトープ作り 散策道整備 ワラビ採り体験	田んぼビオトープ 田の草取り 夏野菜の収穫 伝承野菜の植付け	川入り(川遊び) いかだ下り体験 夏の溪流探検 ヤマメ・イワナ釣り	夜光虫観察会 海遊び 海釣り体験 トビウオダシづくり
秋	キノコ狩り 秋の里山散策 工芸品素材収集 炭焼き窯づくり	稲刈り 秋野菜の収穫 伝承野菜の収穫 冬ごもりの準備	川サケ漁体験 モクズガニ漁体験 アユ漁体験 秋の溪流探検	イカ釣り体験 海サケ漁体験 カヌー海岸体験
冬	枝打ち・間伐体験 炭焼き体験 またぎ猟体験	薪ストーブ体験 ものづくり塾 餅つき 民話塾		

II. 農家体験プログラム

農山漁村の家族と一緒に、暮らしの日常から学ぶ体験学習です。家庭の団欒の中で民話を聞いたり、ソバ打ちに挑戦したり、菜園での収穫を手伝ったりなど、田舎のそのままの生活世界にじかに触れながら時間を過ごします。

1泊2日コース

例

地域体験プログラム
ムⅠ
・田んぼの学校
・ビオトープ作り
17:00 移動
農家体験プログラム
ム
(暮らし体験・宿泊)
<2日目>
8:30 移動
地域体験プログラム
ムⅡ
・川漁体験
<1日目> 溪流探検
13:00 郷土料理会

2泊3日コース

例

・畑の学校
17:00 移動
農家体験プログラム
ムⅠ
(暮らし体験・宿泊)
<2日目>
8:30 移動
地域体験プログラム
ムⅡ
・川漁体験
12:00 郷土料理(森編)
13:00 地域体験プログラム
ムⅢ
・いかだ下り体験
17:00 移動
農家体験プログラム
ムⅡ
(夜光虫・星空観察会・宿泊)
<3日目>
8:30 移動
地域体験プログラム
Ⅳ
・海カヌー体験

ツーリズムへの展開



里地里山の地域と連携する活動作りのポイントとは？

まずはよく地域を調べること、地元の方の話によく耳を傾けること。ここから始まる。

□ (1) 住民主体の地域計画作り

(ヨソモンの目線の違いを活用しつつ自分たちで行う地元学調査とヴィジョン作り)

□ (2) 日常生活に立脚したプログラムとカリキュラム作り

□ (3) 日常の何気ないありふれた素材を力づける

(保全と伝承、再創造、再活用、そしてコミュニティビジネスへ)

□ (4) 人材育成 (担い手育成)

そこにすんでいるおじさん、おばさん、じいちゃん、ばあちゃんが元気に暮らすことが一番の人材育成。そこに若者は引き寄せられてくる (かもしれない)。

問題や課題は地域にあるが解決策も地域にある。

しかし、それよりも地域にある価値を受け継ぎ革新していくというスタンスが大切。

里地里山の地域と連携する活動作りのポイントとは？

まずはよく地域を調べること、地元の方の話によく耳を傾けること。ここから始まる。

□ (1) 住民主体の地域計画作り

(ヨソモンの目線の違いを活用しつつ自分たちで行う地元学調査とヴィジョン作り)

□ (2) 日常生活に立脚したプログラムとカリキュラム作り

□ (3) 日常の何気ないありふれた素材を力づける

(保全と伝承、再創造、再活用、そしてコミュニティビジネスへ)

□ (4) 人材育成 (担い手育成)

そこにすんでいるおじさん、おばさん、じいちゃん、ばあちゃんが元気に暮らすことが一番の人材育成。そこに若者は引き寄せられてくる (かもしれない)。

問題や課題は地域にあるが解決策も地域にある。

しかし、それよりも地域にある価値を受け継ぎ革新していくというスタンスが大切。